

大久野通信 vol.18

こと作りのはじまり



春を目前に、梅は可憐な花を咲かせて山を彩っています。朝晩はまだまだ寒いですが、日中作業をすると少し汗ばむ様にはなりました。大久野倶楽部の活動拠点の空はスギ花粉で霞みます。[Synics.Lab](#)さんと共同運営を開始した農園は、息吹の季節へ準備が着々と進んでいます。今回は、里山にある素材で進めている、様々なモノづくりの取り組みをご紹介します。

INDEX

- ・雨水散水システム
- ・資材倉庫の再生
- ・間伐材で山道づくり
- ・今後の展望

雨水散水システム

農園の場所は元々畑でしたが、長期間耕作放棄地となっていました。雑草の少ない冬場は、活用できそうな廃材がいろいろと姿を現します。その一つが、貯水タンクです。架台付きの 200L クラスの角型タンクが、「まだ使えるよ！」と語り掛けます。現地は水道が無いので、特に夏場の渇水時期に溜めた雨水が利用できれば、野菜たちも喜びます。どうせなら自動散水まで実現したい、想いは膨らみますが、まずはどうやって雨水を溜めるかです。一般家庭では、雨樋を利用して集水する例がありますが、現地は開けた畑です。さあどうしましょう。雨水散水システムは、ようやく最初の一步を踏み出したところです。



水平な据付場所を準備して



復活した遊休タンク

資材倉庫の再生

農園の端には、先人が利用していた倉庫が草に埋もれていました。夏場は蛇などを恐れて近づけなかったので、整備するなら寒いこの時期と奮起しました。周囲の雑草を根から掘り返し、竹炭を敷き詰めてアクセスが出来る状態になりました。これから内装や入口部分などの整備が必要ですが、農機具や肥料などの保管に活用しようと考えています。



冬場に姿を現す倉庫



竹炭でアクセス可能に

間伐材で山道づくり

活動拠点周辺は杉や竹に覆われています。放置される杉林の間伐に都が注力している関係で、山には放置された間伐材がゴロゴロしています。一方、日の出三六会の皆さんが竹林の整備を進めており、竹材も豊富です。これらの素材たちに誘われ、この冬はDIYにも没頭しました。力作の一例をご紹介します。



廃材を利用した竹粉置き場



沢を見下ろす縁台



山に続く林道の階段



杉材でくま取りした山道

今後の展望

美しい里山作りの過程で出会う様々な素材たち。それらを活用して新しい価値を創造する、循環型社会の実現を目指す大久野倶楽部の重要な取り組みです。彼ら（素材たち）と向き合いながら、何を作るかイメージするのもまた楽しい時間です。製作開始から完成までの道のりは、食事も忘れて作業に没頭してしまいます。土木作業では、手足が攣り始めて時間の経過に気づくこともしばしば。毎週、筋肉痛と心地よい達成感で週明けを迎えます。この活動は、初夏まで続きます。